日本大學農獣醫學部校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京商工KK

会則大幅に改正

躍進に即応した総会

昭和二十六年六月十七日午後一時三十分から校友会の会則改正による総会が九年目に多名の校友が集って学部新館で開催された。議長に工藤長城氏（拓殖学科分会）書記に高坂氏（農業経済学科分会）坪木氏（農学科分会）を選任し、ただちに議事に入り、まず昭和三十年度の経過報告が佐々木事務局長により行われた。

○経過報告第一は会則を改正して会の組織を改めたことで、理事会の中に会則改正に関する委員会を昭和三十五年五月六日に設置し、従来の会則の評議員会制度その他につき本部校友会および他学部校友会の会則を参照し討議を重ねた結果、昭和三十六年五月二十五日の評議員会において会則の改正の決定を行った（旧会則によれば会則改正は評議員会で行うことになっていた）その主点は従来総会を開くことが種々の事情で困難なため評議員会をもってこれに代りとしていたのを廃し、総会を開くことにしたこと（第九条）と、各学科別の出身者で組織しているそれぞれの校友会を会体の組織の中の分会として取扱うことを認めたこと（第二条）である。第一は学部の設備充実に関して、これは昨年四月十八日の理事会の常任水産学科分会の松尾氏から水産学科として急罪共実習船が必要でありとのことについては昭和二十六年ごろから度々学部ならびに本学本部当局にお願いしその度ごとに早急に建造するよう努力するとの回答があり、また昭和三十三年十一月には水産学科分会（桜水会）で校友から募金しその建造基金の一部として二十万円を学部当局に手渡すなどのことがあったが、未だ解決の見込がないとの説明、ならびにこの建造を推進するための要請があり、また農学科分会の山本氏から農況から現在地に移転して以来、農場近相当の時間を必要とするので種々の実験研究に評価な支障を来しており、学部から二十分以内程度の交通のところに研究圃場を設置されるよう要望したとの提案があり、また農芸化学科分会（紫友会）の小関氏から農芸化学科の大学院修士課程設置の要望、農業経済学科分会（いちょう会）の来栄氏から大学院博士課程設置の要望の提案がそれぞれあり、各理事とも一致してこれらの問題にたいし、その推進実現を大学当局に強力に運動することに決し設備充実対策委員会を理事会内に設けた。その後十九回にわたる各種の会合を開き、昭和三十五年六月二十七日には岩田学部長に要望書を提出し、また昭和三十六月一日二十七日には学部長および市川事務長と会合して自治運成のために努力しており、幸に当局の深い理解と努力により実習船は三カ年計画で行う日大船五〇周年記念事業の一部として建造するとの吉田会長の年頭所感の発言があり、農場は農場等合理化委員会が学部内に設置して、現在の立七十周年記念事業の一部としてその実現に努力することを明確にのべており、また農学科の研究圃場の設置については現在あるグ腰沢農場のより合理化を行ないその一環として農場全体としての観点からこの問題を解決するこの方針により農場等合理化委員会が本年二月に発足し、創業計画を重ねその実現に努力しており、また農学科の研究圃場の設置については現在あるグ腰沢農場の一環として併せて解決するとの学部長の説明があり、農学科分会の山本氏から農況から現在地に移転して以来、農場近相当の時間を必要とするので種々の実験研究に評価な支障を来しており、立七十周年記念事業の一部としてその実現に努力することを明確にのべており、また農学科の研究圃場の設置については現在あるグ腰沢農場のより合理化を行ないその一環として農場全体としての観点からこの問題を解決するこの方針により農場等合理化委員会が本年二月に発足し、創業計画を重ねその実現に努力しており、また農学科の研究圃場の設置については現在あるグ腰沢農場の一環として併せて解決するとの学部長の説明があり、

（昭和三十六年一月二十七日）農芸化学科の大学院は関係各位の御骨折により治安通り開設出来るようう運通しがつき、また農業経済学科の博士課程はその一日も早からんことを努力中とのことである。第二は会報の発行で学部祭前の十月下旬に発行した。第四は名簿の作製でこの件については理事会に決定各分会に資料を依頼してあるので本年度には発行される見込みである。その他岩田学部長のヨーロッパ視察に際し、農業会議（昭和三十五年六月二十四日）開催されてから学長就任学部長三期を兼ねて懇国歌連会を行い（昭和三十五年十月十七日）また理事評議員の恵年会を（昭和三十五年十二月十五日）行った。つづいて各分会から推せられた理事候補者につき万場一致で承認された。第三号議案に移り、事務局長より予算については組織が全く新しく切り替ったのであるから当面に限り新理事に選任してはとの発言があり議成されたのでさらに前年度の事業であり名簿の発行、設備充実促進の運動、会報の発行等を継続して本年度の事業計画としたいとの発言があったが事業計画と予算とは一体のものであり予算の立案がなくして事業計画はあり得ないという発言があり、また総

（以下二面につづく）

設備充実へ前進

経済機構の改革発展を目ざした農業基本法の制定等の一連の措置は農獣医学部に対し時代の趨勢に応じた適切な教育を学生諸君の創意学科課程の整備教育設備の充実等の各方面に強力な早急に行なうことを要求している。六年前に農芸化学科設置の要望が農学科設置専攻の要望を中心として提出され校友会としてその設置を天学当局に強く要請した結果当局の並々ならぬ御努力により理工系学部から二十分以内程度の交通のところに研究圃場を設置されるよう要望したとの提案があり、また農芸化学科分会（紫友会）の小関氏から農芸化学科の大学院修士課程設置の要望、農業経済学科分会（いちょう会）の来栄氏から大学院博士課程設置の要望の提案がそれぞれあり、各理事とも一致してこれらの問題にたいし、その推進実現を大学当局に強力に運動することに決し設備充実対策委員会を理事会内に設けた。その後十九回にわたる各種の会合を開き、昭和三十五年六月二十七日には岩田学部長に要望書を提出し、また昭和三十六月一日二十七日には学部長および市川事務長と会合して自治運成のために努力しており、幸に当局の深い理解と努力により実習船は三カ年計画で行う日大船五〇周年記念事業の一部として建造するとの吉田会長の年頭所感の発言があり、農場は農場等合理化委員会が学部内に設置して、現在の立案がなくして事業計画はあり得ないという発言があり、また総

日本大学農獣医学部校友会々則

（名称）
第一条　本会は日本大学農獣医学部校友会という
（事務所）
第二条
1本会は事務所を東京都世田谷区下馬三の四九番地
本大学農獣医学部内におく
2各学科別に分会をおく
3分会に関する規定は別に定める
（目的）
第三条　本会は会員相互の親睦を図り、併せて本大学の振興に寄与することを目的とする
（事業）
第四条　本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う
1会報の発行
2会員名簿の作製
3その他本会の目的達成に必要なこと
（会計）
第五条　本会は次に掲げる資金を以て会員とする
正会員　日本大学農獣医学部関係各学科の卒業生
賛助会員　日本大学農獣医学部教授農況及び本会に特別の功労があって理事会の推薦したもの
（役員）
第六条　本会に次の役員をおく
会　長　一名
副会長　三名
理　事　若干名
監　事　三名
2役員の任期は二ヵ年とする、但し再任を妨げない
3補欠で就任した役員の任期は前任者の残任期間とする
4役員は任期満了後も後任者の就任するまでその任務を行うものとする
5以上の役員の他、名誉会長、顧問、相談役をおくことができる
（役員の選任）
第七条
1会長、副会長は理事会において互選する
2理事及び監事は総会において、正会員中より夫々選出する
（役員の職務）
第八条
1会長は本会を代表し会務を統理し、理事会に
2副会長は会長を補佐し、必要に応じ会長の職務を代行する
3理事は理事会を組織し、事業の執行に当る
4監事は本会の経理状況及び業務の執行状況を監査する
（会議）
第九条
1会議は総会及び理事会の二つとする。
2会議は会長が招集し、議長はその都度出する。
3総会は毎年一回これを開く、但し必要に応じ臨時に開くことが出来る。
（議決方法）
第十条　会議の議決方法は出席者の過半数により これを決する。可否同数の時は決定を保留する。
（事務局の設置）
第十一条
1本会に事務局を設置する。
2事務局長は理事会の承認を経て会長が任命する
3事務局長は会議中より若干の局員を任命し得る
4事務局長は会議において報告する。
（委員会の設置）
第十二条
1本会の事業を運営するため、必要あるときは理事会の議を経て委員会をおくことができる。
2委員会の規定は別に定める
（経費）
第十三条　本会の経費は次の収入を以ってこれにあてる
1会費
2寄付金
3その他の収入
（会費）
第十四条　本会の会費は次の通りとする。
イ入会金　三〇〇円
ロ年会費　一〇〇円
第十五条　本会則の改正は理事会並びに総会の議を経なければならない。その決定に当っては各会議において、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。
第十六条　この会則に必要な細則は理事会の議決を経て会長がこれを定める。
昭和三十六年五月二十五日改正

昭和三十六年度　日本大学農獣医学部校友会役員名簿

役名	姓名	出身学科
常任委員	工藤正城	農業経済
副会長	加地正光	〃
常任委員	佐藤弘一	〃
副会長	松尾栄之	〃
常任委員	山本秀雄	農学
理事	岡部務	〃
〃	矢島春太郎	〃
〃	小関海	農芸化学
〃	設楽茂雄	〃
〃	藤本和吾	〃
〃	安藤泰治郎	獣医学
〃	加地正光	〃
〃	大船俊一	〃
〃	白山巌	畜産学
〃	野崎邦興	〃
〃	田島真次郎	〃
〃	佐藤弘一	農業経済学
〃	来栄速水	〃
〃	三木敏夫	〃
〃	鹿野忠	林学
〃	上野喜昭	〃
〃	千葉勝也	〃
〃	松尾栄之	水産学
〃	出口吉昭	〃
〃	後爽英俊	〃
〃	工藤正城	拓殖科
〃	北川休	〃
〃	安保陽雄	〃
監事	福島正次	獣医学
〃	山根勝次	農業経済学
〃	添田秀男	水産学
専務局長	佐々木実	畜産学

大学祭だより

学生にとって頭の痛い試験の終ると、大学祭の準備が始まる。

今年はオール日大合同大学祭は行なわれないで、各学部で十一月一日から三日まで、それぞれの学部の特色を生かした学部祭の類が行なわれる。しかし大学当局のお達しが出ているので、学生一同張切っているのの模様をお待ちしている次第です。

（学生課長佐々木弘雄）

（一面総会記事つゞき）

会、理事会の性格、機関等につき種々討議が行われ、事務局長より会員の大きな改正を需議する旨の説明の各理事の意見等について説明が行われたが、一旦休憩して新理事により予算案を検討と総会、懇談してはとの提案がありて十分間の休憩に入った。

（二面総会記事つゞき）

会、理事会の性格、機関等につき種々討議が行われ、事務局長より会員の大きな改正を需議する旨の説明の各理事の意見等について説明が行われたが、一旦休憩して新理事により予算案を検討と総会、懇談してはとの提案がありて十分間の休憩に入った。

直ちに理事会を開いて検討の結果予算案を作成、総会に提出方場一致可決した。

次に監事二名の選出に移り福島氏（農獣医学科文化）、山根氏（農業経済学科分会）の諸氏が選出された。

その後、会則改正についての事務運営上の事項につき種々討議発言があり、学生の農場学習は農獣医の設秋も深まって文化の日も近づいて来ました。

農学校友会も昭和二十三年に一期の卒業生が巣立って以来、今年で十五期四〇〇名の校友が各界の第一線に活躍しておられる事で御同慶に堪えません。

総会通知　本年も十一月一日、二日、三日と大学祭が行われますが、農学校友会も三日、文化の日に第九回の総会及び懇親会を開催致しますので、遠隔の方も東京に出掛けることがありましたら後援の研究信念高覧いただき併せて総会に出席して頂き度いと考えて居ります。

研究圃場、校舎問題　鹿沢校舎から東京校舎に昭和二十九年に移って去る三百坪最後の農学実習室、日本畜産の諸工場を見学、各地で大歓迎をうけたいに学科、学部のPRの役目を果した。特に宮崎市では目抜通りに歓迎のビラの出る様でまた「拍した入吉市では駅横食堂、小松市居、江別製粉といったように好農家のお態でかなり接待であった。

四月に新入生自一千名を迎えと共に農化学科の学部全コースが完成したわけで現在年生六十五名、二年生百名、二年生百二十名、三年生百名、二年生百二十名計四百四名の大学科に成長した。更に将来は大学院設置にまで発展するものと思われる。

四年生は去る三月九州地方に修学旅行に出かけたが、阿蘇、鹿児島、霧島、三角化成、旭化成、新日本製糖の諸工場を見学、各地で大歓迎をうけたいに学科、学部のPRの役目を果した。特に宮崎市では目抜通りに歓迎のビラの出る様でまた「拍した入吉市では駅横食堂、小松市居、江別製粉といったように好農家のお態でかなり接待であった。しかし恒大学の見学

農学科

行委員として、大学当局者と他に挨拶して面倒過程に努力して戻りますが、校友見学から絶大な御支援をお願い致します。

学内校友人事移動　一期佐々木弘雄氏（一月一十日）二期加藤正義氏、三期高橋次郎氏、島正氏

農芸化学

印とも取なる学科制が出られに学力程度を比較していると思われる点なられたり、農獣医学部とは何か上回されたいろいろ考えさせられる点もあった。

この四年生は農芸化学の二期生でもあり学部中でもレベルが高く首席特待生を含む四名の特待生が

獣医学科

その後獣医学科の教授陣には大きな変動はなかったが、さきに改革に留学しておった細谷教授が帰朝引続き今回小松教授がアレルギー学会出席と獣医学教育視察のため

林学科

食用菌研究所の設置に関する要望書を作成、総会に提出方場一致可決した。

次に監事二名の選出に移り福島氏（農獣医学科文化）、山根氏（農業経済学科分会）の諸氏が選出された。

その後、会則改正についての事務運営上の事項につき種々討議発言があり、学生の農場学習は農獣医の設秋も深まって文化の日も近づいて来ました。

農学校友会も昭和二十三年に一期の卒業生が巣立って以来、今年で十五期四〇〇名の校友が各界の第一線に活躍しておられる事で御同慶に堪えません。

総会通知　本年も十一月一日、二日、三日と大学祭が行なわれますが、農学校友会も三日、文化の日に第九回の総会及び懇親会を開催致しますので、遠隔の方も東京に出掛けることがありましたら後援の研究信念高覧いただき併せて総会に出席して頂き度いと考えて居ります。

研究圃場、校舎問題　鹿沢校舎から東京校舎に昭和二十九年に移って去る三百坪最後の農学実習室、日本畜産